

副専攻プログラム説明書

開設学部（学科）名〔生物生産学部（生物生産学科）〕

| | |
|--|--|
| プログラムの名称 | (和文) 分子農学生命科学副専攻プログラム |
| | (英文) Molecular Agro-Life Science Program |
| <p>1. 概要</p> <p>分子農学生命科学主専攻プログラムは、5つのキーワード（ゲノム科学、生体物質、高次生命体、ヘルスケア、バイオテクノロジー）のもとに構成された教員によって実施され、履修する学生は、生物の機能を低分子化合物や遺伝子、蛋白質等の生体高分子の視点から解き明かす能力を養う。加えて、細胞や細胞内の小器官を生体分子の集合体として特徴づけ、分子が織り成す細胞や生物個体の生命現象を学修する。本プログラムのコアとなる履修科目の学問分野は、分子生物学の視点から農学分野の先端技術へとシームレスに展開する「実学のベースとなる基礎分野」という特色があるものである。</p> | |
| <p>2. 到達目標</p> <p>生物生産学の基盤となる生体分子・細胞・個体・個体群の生命現象に関する基礎的及び専門的な知識を体系的及び階層的に理解することができる。</p> | |
| <p>3. 登録時期</p> <p>プログラムの履修開始時期は3セメスターからです。また、プログラムの登録は、履修開始前（事前登録）とします。なお、事後登録でも差し支えない。</p> | |
| <p>4. 登録要件</p> <p>本プログラムは、本学のすべての学生に開かれています。本プログラム選択のための既修得要件はありません。</p> | |
| <p>5. 受入上限数</p> <p>10名</p> | |
| <p>6. 授業科目</p> <p>※授業科目は、別紙の履修表を参照すること。 ※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。</p> | |
| <p>7. 修了要件</p> <p>指定する18単位を修得すること。</p> | |
| <p>8. 責任体制</p> <p>分子農学生命科学副専攻プログラム担当教員会</p> | |
| <p>9. 既修得単位等の認定単位数等</p> <p>(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等 8単位</p> <p>(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等 8単位</p> | |

【副専攻プログラム履修に関する注意事項】

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○副専攻プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

分子農学生命科学副専攻プログラム履修表

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | 履修期 | 要修得単位数 |
|--------|----------|-----|-----|--------------|
| 教養教育科目 | 種生物学 | 2 | 3 | このうちから2単位以上 |
| | 細胞科学 | 2 | 4 | |
| 専門基礎科目 | 微生物学入門 | 2 | 3 | 2 |
| | 分子生化学入門 | 2 | 4 | 2 |
| | 生理学入門 | 2 | 3 | 2 |
| 専門科目 | ゲノム科学 I | 2 | 6 | このうちから10単位以上 |
| | ゲノム科学 II | 2 | 6 | |
| | 生物有機化学 | 2 | 6 | |
| | 天然物有機化学 | 2 | 6 | |
| | 分子細胞生物学 | 2 | 6 | |
| | 生命物質分析学 | 2 | 6 | |
| | 高次生命科学 | 2 | 5 | |
| | 細胞工学 | 2 | 5 | |
| | 植物分子生物学 | 2 | 5 | |
| | 水圏生化学 | 2 | 5 | |
| 合 計 | | | | 18 |